




## 審査結果の要旨

報告番号	(乙) 第 <b>2776</b> 号	氏名	永野 剛志
審査担当者	主査	伊東恭悟	(印) 
	副主査	田中永一郎	(印) 
	副主査	田中芳明	(印) 
主論文題目： A randomized controlled trial comparing antioxidant-enriched enteral nutrition with immune-enhancing enteral nutrition after esophagectomy for cancer: a pilot study 食道癌手術における抗酸化栄養剤と免疫増強栄養剤の有用性についてのランダム化比較試験			

### 審査結果の要旨 (意見)

本論文は食道癌手術前後の栄養管理の観点から無作為比較試験を実施しており、今後の栄養管理に多くの示唆と与え、優れた医学論文として高く評価される。

### 論文要旨

この研究の目的は、食道癌患者の手術周術期において免疫増強栄養剤と抗酸化栄養素を強化した栄養剤を使用し、それぞれの群の栄養状態、免疫能、炎症反応、抗酸化能及び臨床経過を比較することである。対象は、久留米大学病院外科で右開胸食道切除を施行した75歳未満の経口摂取可能な食道癌患者20例(年齢中央値=66歳, 男:女=18:2)で、抗酸化栄養群10例, 免疫栄養群10例の2群に無作為に割り付けた。栄養剤の投与方法は、術前5日間の経口投与と術後7日間の経腸投与とした。周術期において栄養指標, 炎症免疫指標, 酸化ストレスマーカー, 抗酸化能, 合併症を比較検討した。結果であるが、両群とも術後に栄養指標が低下したが、周術期を通じて有意差は認めなかった。両群で術後に炎症指標が上昇したが、有意差は認めなかった。また両群で手術により血清中の酸化ストレスマーカーが上昇したが、周術期におけるその値の変化に有意差を認めなかった。この予備試験により食道癌患者周術期における抗酸化栄養剤と免疫栄養剤の使用は、同等の栄養状態改善, 抗炎症効果, 免疫増強効果, 抗酸化効果および術後経過を示すことが示唆された。これらの所見を明らかにするにはさらなる大規模試験が必要である。